

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
西小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

西小倉 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をほぼ上回っており、言語知識理解は基礎ができていた。 ・話す・聞く力を問う問題に課題となるところがあり、互いに伝え合う力を高める必要がある。
	よくできた問題	・国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・物語の登場人物の相互関係を捉える問題は、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をほぼ上回っており、書く能力は基礎ができ、立場を明確にして、自分の考えを表現することができている。 ・工夫を読み取ったり、情報を関係付けたりする問題にやや課題がある。
	よくできた問題	・二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える問題は、正答率が低かった。

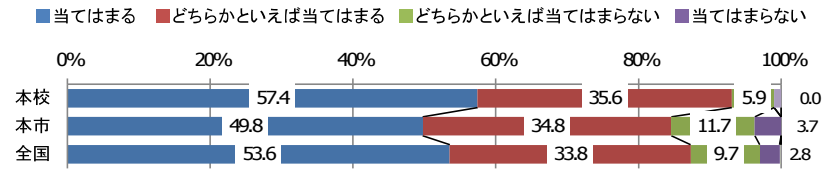
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をほぼ上回っており、数量や図形についての技能がしっかりと定着してきている。 ・数と計算、図形領域に関する知識・理解については、課題となる部分が伺える。
	よくできた問題	・比較量の求め方が[基準量]×[割合]になることを理解している問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・分数の相等及び大小についての理解に関する問題の正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をほぼ上回っており、自分の考えをしっかりと記述し、表現することができている。 ・図形領域の技能については、やや課題が見られる。
	よくできた問題	・2つの数量が重なる部分を、公倍数に着目して記述できる問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰める問題の正答率が低く、無回答も高い傾向にあった。

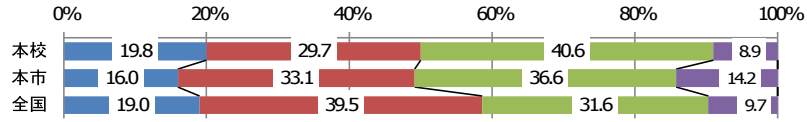
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

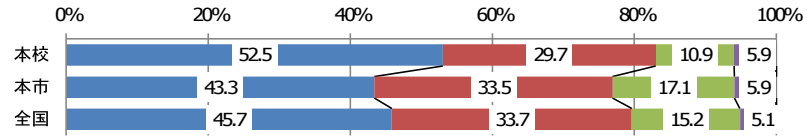
54
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



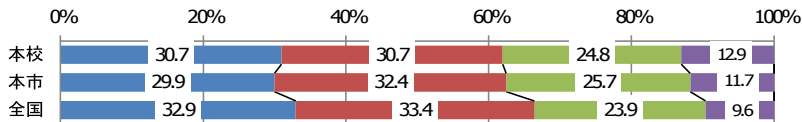
56
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか



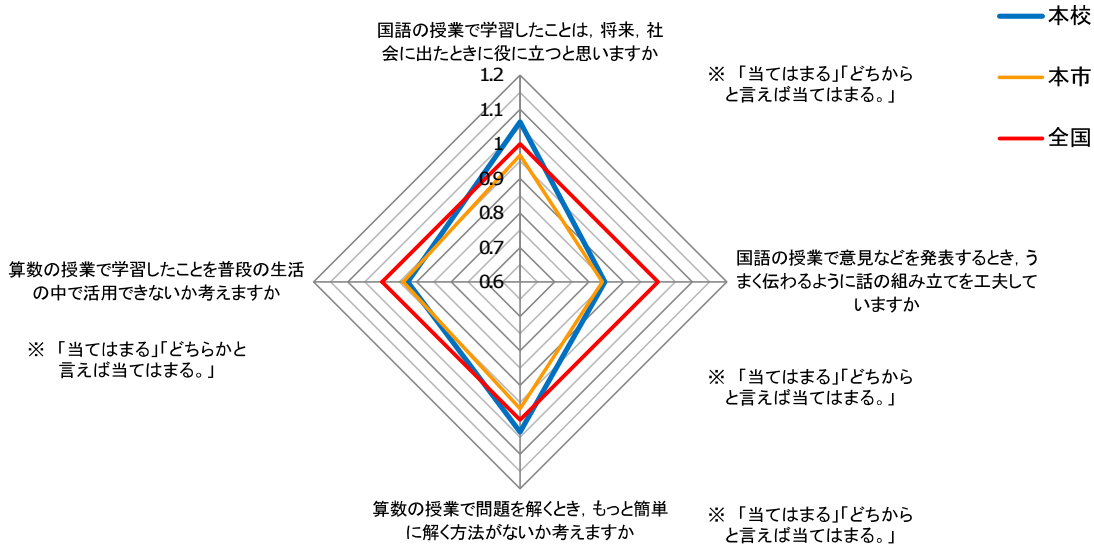
69
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



67
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

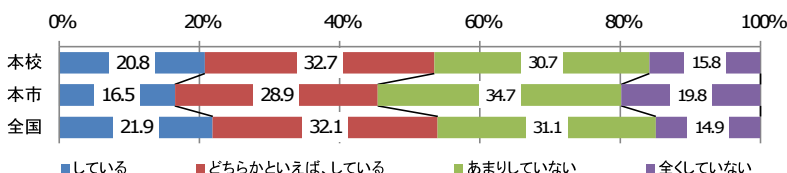
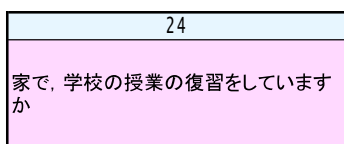
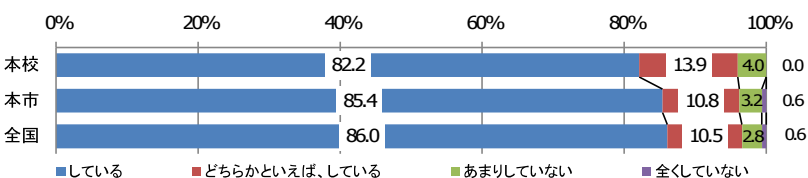
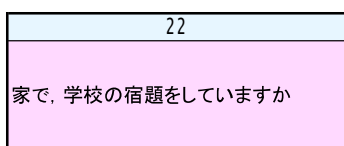
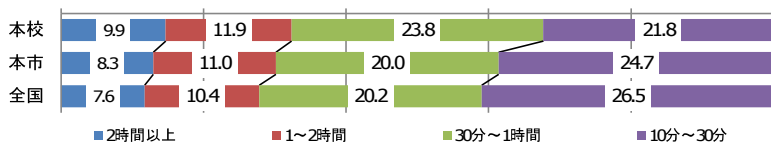
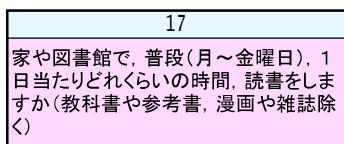
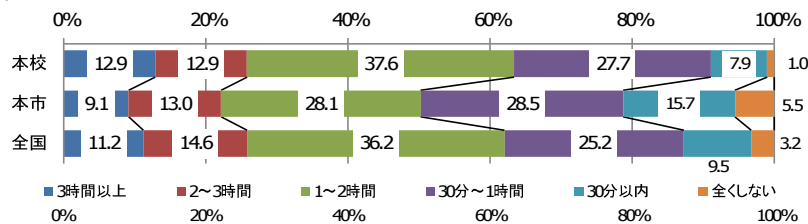
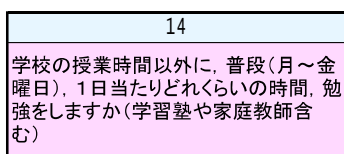


⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

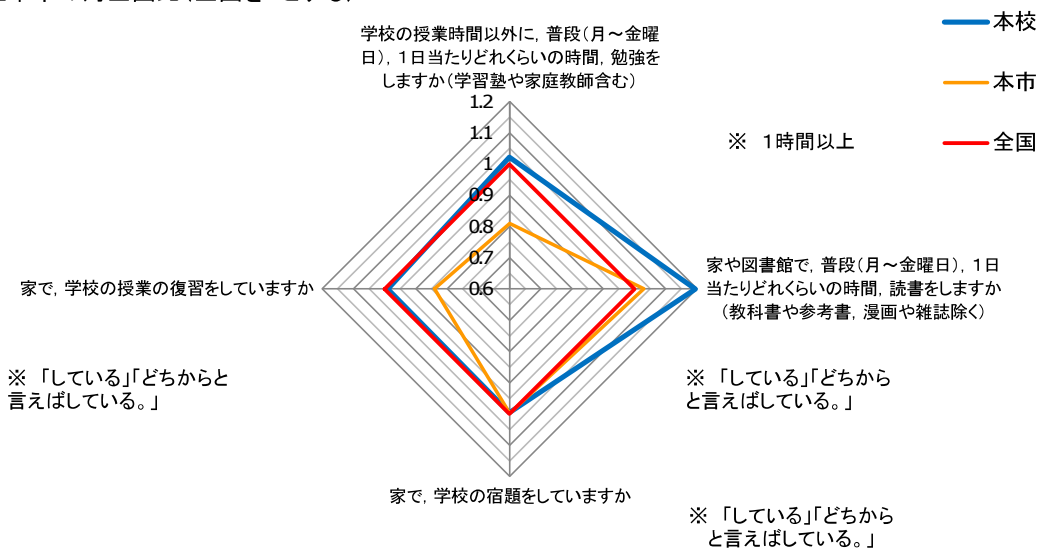
- ・各教科等の学習を通して、今後の自分への有用感を感じながら、授業に臨んでいる児童は、全国と比較しても平均を上回ってきており、自主的に学ぶ姿が育っている。
- ・自分の考えを伝えることに抵抗感を持っている児童が多い傾向にある。話す・書くことに関しては、学力調査の結果からも、関連付けるという項目で正答率が低くなる傾向があり、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、話す・書くことを授業に取り入れる必要がある。
- ・算数科の学習では、自分なりに解決方法を見つけ出そうとする学び方が定着していることが分かる。今後は、普段の生活の関連を意識付けた授業を構成し、活用力を高めていくようにする必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

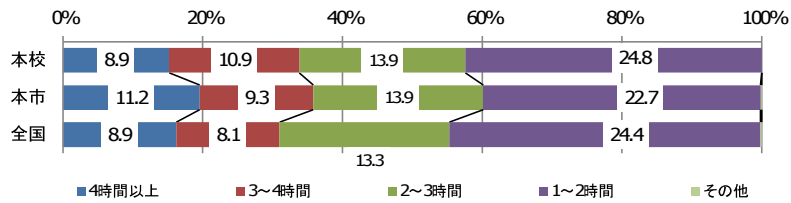


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

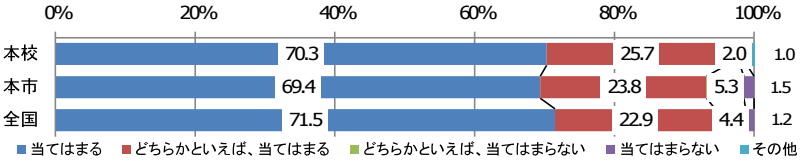
- ・「いきいき月間」の取組や家庭学習チャレンジハンドブックの活用などを通じた家庭学習、読書の推進により、家庭の学習時間は全国平均並みとなっているが、今後さらなる取組の充実を図る必要がある。
- ・自分から進んで、計画的に学習を進めている児童の割合が高いとは言えない状況が課題である。

④ 生活習慣等に関する調査結果

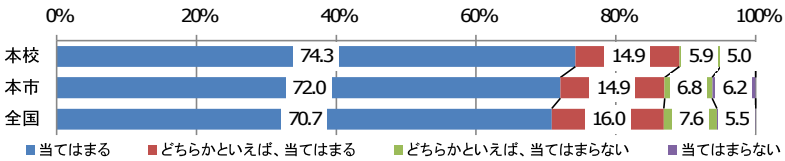
12
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



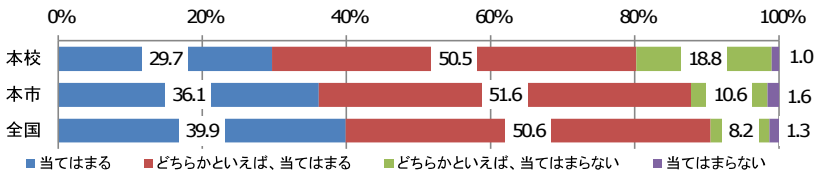
4
 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



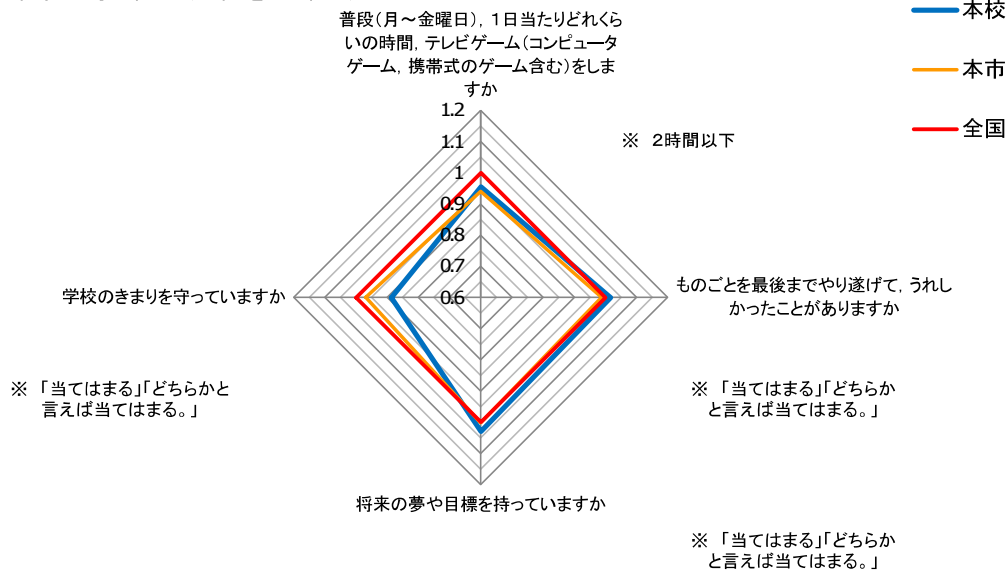
10
 将来の夢や目標を持っていますか



34
 学校のきまりを守っていますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビゲーム等の時間は、全国平均と比べると少ない傾向にあるが、3時間以上の児童が約1割いることは課題である。
 ・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。
 ・学校のきまりを守ることができていないという意識をもった児童の割合が高い。規範意識を高めるためにも、自分自身が約束を意識して取り組めるような活動を推進していく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・全職員で問題(学テ・CRT)を解いたり、学期に1回実施する「いきいき月間」の成果や課題、改善策について話し合ったりする。
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習で全校一斉に実施(月…学力アップタイム 火…朝の読書 木…算数タイム 金…音読タイム)
 - ・学力アップタイムの内容計画表作成(学力向上推進委員会・各学年)→「いきいき学習」への取組。
 - ・朝の読書では、スクールヘルパー(読み聞かせボランティア)による読み聞かせや全校10分間読書に取り組む。(各学年で読んでほしい本を紹介し、読書の幅を広げる。)
 - ・算数タイムでは、少人数指導担当が過去問題、アシストシート、単元別プリント等の準備と管理をする。(思考力・表現力を高める問題を充実させていく。)
 - ・音読タイムでは、音読暗唱「ひまわり」を用いて、年間計画を作成。全校音読にも取り組む。
 - ・給食準備時間に、学習中、つまずきのある児童の個別指導をする。(補助教員を配置し、活動の推進を図る。)
 - ・小中連携サポーター…計画的な配置、活動補助、プリント整備。
- ◎ 過去問題、アシストシート(パソコンにデータを入れておく)の活用
 - ・「いきいき学習」の取組の一つとして「学力アップタイム」や宿題、授業のまとめの時間等で活用する。
- 「話す・書く・読む」ことの習慣化
 - ・「西小倉スタンダード」による学習規律の定着。学習のめあて、まとめは必ず記述し、1時間の課題を明確にした授業づくりを行う。また、考えを表現している姿をしっかりと評価し、価値付けする。
 - ・学習の中に、「書く」活動を入れるようにする。主題研体育科の学習では、「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。
 - ・2学期の「いきいき月間」において家庭読書を推進する取組を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題の習慣化を図る取組
 - ・自主学習ノートの活用
 - ・各学年に応じた家庭学習時間の設定
 - ・各学年の実態に応じた「家庭学習の内容」の充実
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自習学習の取組
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り・学校HPを活用して、保護者へ周知し、連携を図る。